

しつもん

- ①お葬式の際に香典を渡す？ ②結婚式などお祝いの時にお金を渡す？  
③香典袋とか熨斗袋のようなものはある？ ④お葬式一般について



ジャマイカ

- ①渡さない。貧しい家庭や、自分の家族・親戚などには助ける意味でお金を渡すことがある。弔問に家に行くとパンなどの軽食と飲み物を出してくれる。葬儀代金を用意するのが難しい場合、その飲み物を有料にして葬儀代に当てることもある。
- ②渡す。新郎新婦が開いた口座にお祝いを振り込む。プレゼントを送ることもある。
- ③ない。普通の封筒に入れて渡すか、何にも入れない。もしくは銀行口座に振り込む。
- ④お葬式・埋葬までの9晩、家に弔問客が来て、軽食と飲み物をふるまう。9番目の夜が一番盛大。葬儀と埋葬の後は人が家にたくさん来て、ヤギ肉のカレーや牛肉などジャマイカで一番豪華とされる料理を振る舞う。バンドを呼ぶこともある。



イギリス  
キリスト教の場合

- ①故人が選んだ慈善団体や基金に寄付する。寄付には封筒を使うこともあるが、大抵、専用のボウルにそっと寄付金を入れる。
- ②プレゼントの方が一般的だが、最近行った親族の結婚式では、3年間同棲して生活に必要なものは揃っていたので、出席者はハネムーンの為にお金を頼まれた。
- ③ない。お金はそっと目立たないように渡

すもの。葬儀、結婚、出産の際はカードを送る。

- ④誰かが亡くなったら新聞にお知らせを載せる。最近はインターネットも使われる。お知らせには、誰がどこで亡くなったか、葬儀の場所、日時、が書かれている。葬儀は親族だけで行うこともあり、その場合たいてい追悼式が後日行われる。故人が選んだ慈善団体や基金への寄付のお願いも書かれていることがある。

葬儀では、お祈りをし、讃美歌を歌い、聖書などの朗読をする。弔辞では故人をよく知る人が故人の人生や性格、悲しみを和らげたり場が和むようなエピソードを話す。最後に寄付を募る。



ノルウェー  
現地在住日本人

- ①お金は渡さない。お花を教会か親族の家に送る。故人の希望でお花の代わりに、慈善団体とか病気の研究機関などへの寄付を募ることも多い。
- ②渡さない。結婚式に呼ばれたら、自分で選んだプレゼントか、カップルが作った欲しいものリストから選んで持参する。出産祝いもプレゼントを家に持っていく。
- ③渡さない。そもそもクレジットカード社会なので現金をやりとりしない。
- ④身内が亡くなったらほとんどの人が新聞

に投稿する。葬儀に人を招待したい場合は葬儀の前に、内輪で行うなら葬儀が終わった後に記事を載せる。「お花ではなく〇〇に寄付してください。振込先は～～」のように寄付のお願いが書かれていることもある。ちなみに葬儀の費用は3万クローネ(約35万円)くらい。



韓国

- ①渡す。葬儀でお金を封筒に入れて渡す。
- ②通常は封筒にお金を入れて渡す。誕生祝いはお金かゴールドのベビーリングを選ぶ。若い人は結婚祝いを口座に直接振り込んだりアプリを使ったりもする。
- ③ある。葬儀や、目上の人にお金を渡す時



は封筒に入れて渡すのがマナー。葬儀に行けない場合でも封筒に入れて、参列する知り合いに預ける。結婚式などお祝いの場合なら、口座に振り込んでも構わない。

- ④病院で亡くなった場合は病院内の葬儀場で葬儀をするのが一般的。イギリス留学中葬儀に行ったが、故人の好きだった歌を歌ったり、エピソードをシェアしたりして陽気な感じで驚いた。韓国の葬儀で笑ったり歌ったりするのは考えられないし、失礼にあたる。

なんとなく、金封を使うのは日本だけなのかな？と書いていたのですが、韓国にはよく似たものがあるんですね。「香典を家族に渡すのではなく、故人が選んだ団体や基金に寄付を」や「そもそも現金をやり取りする習慣がない」など、国によってさまざまな考え方、やり方があるようで、興味深かったです。葬儀に対する感覚も、韓国がもっとも近い感じがしました。「故人の好きだった曲をBGMに」というのは日本のお葬式でもよく出会う演出のひとつですが、参列者みんなで歌を歌ったり、バンドを呼ぶのは想像できませんよね。でも、故人に関するエピソードや好きだったものごとを共有すること——悲しみや寂しさや愛おしさなどのさまざまな想いを故人を知る人どうして分かち合うことは、グリーフケアの観点からとても大切なことだと思います。ジャマイカのように9日間とはいかずとも、儀式としてのお葬式を形式的に済ませるのではなく、故人を偲ぶ人びとが一堂に会し、そのご縁によって仏法を聞かせていただきながら「今生きている私」の人生のあり方に向き合う大切な時間として、心静かに過ごしていただきたいと願っています。